

# きつつきの商売

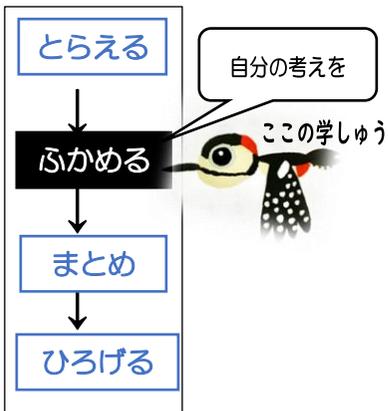
林原 玉枝 作・村上 康成 絵

## 読む力

- ①場面のようすを思いうかべながら（そうぞうしながら）、音読する力。
- ②文しようを読んで、登場人物の気持ちを考える（そうぞうする）力。

その力をつけるために・・・

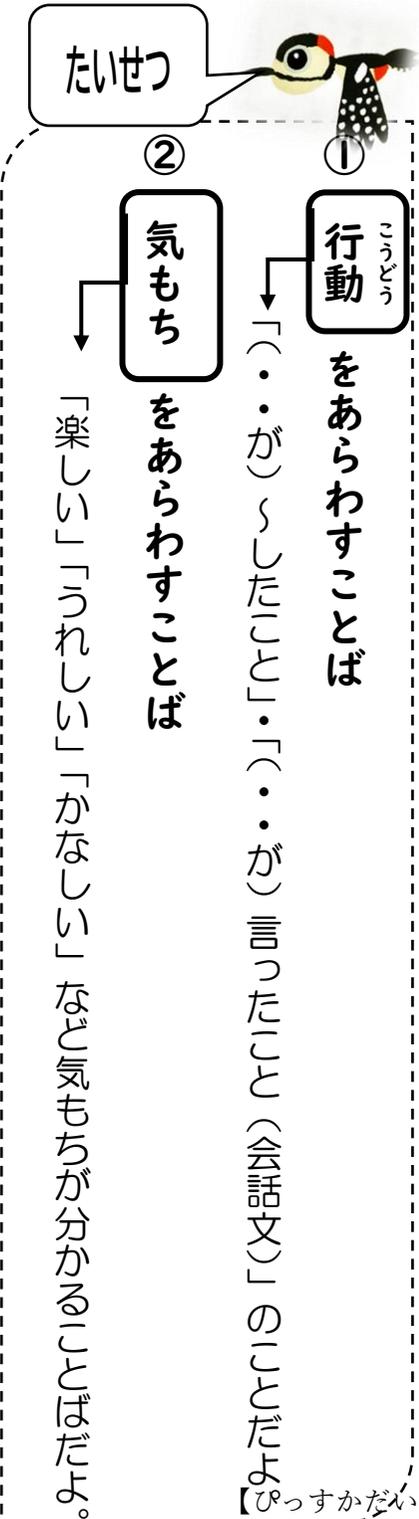
【めあて】「」場面のようすや、登場人物の気持ちをそうぞうしよう。



No.②のプリントの最後に、「あなたがおきやくなら・・・」ということを考えました。そのあなたの考えがよりふかまるように、このプリントではそれぞれの場面をくわしく読んでいきます。

場面のようすや気持ち<sup>こころ</sup>をそうぞうするときには、文しようからつぎのことは

見つけることが大切です。



では、じっさいに「行動」や「気持ち」のことはをさがして、場面のようすや気持ち<sup>こころ</sup>をそうぞうしていきましょう。

◎下の本文の中で、あてはまることばや文に、それぞれ色の線（サイドライン）をひきます。

①きつつきの行動（きつつきがしたこと・言ったこと）↓みどり色

②野うさぎの行動（野うさぎがしたこと・言ったこと）↓赤色

③まわり（ふなの森など）のようすがあらわれていることばや文↓青色

\*聞こえる音も「まわりのようす」だよ。

【1】場面とちゅうから】

きつつきは、野うさぎをつれて、ぶなの森にやって来ました。

それから、野うさぎを、大きなぶなの木の下に立たせると、自分は、木のとっぺん近くのみきに止まりました。

「さあ、いきますよ、いいですか。」

きつつきは、木の上から声をかけました。野うさぎは、きつつきを見上げて、こっくりうなずきました。

「では。」

きつつきは、ぶなの木のみきを、

くちばしでカいっばいたたきました。

コーン。

ぶなの木の音が、ぶなの森にこだ

ましました。

野うさぎは、きつつきを見上げたまま、だまって聞いていました。

きつつきも、うっとり聞いていました。

四分音符分よりも、うんと長い時間がすぎてゆきました。

◎「」場面の行動やようすから、あなたは、どんなことをそうぞうしましたか。音を

聞かせた「きつつき」と、音をきいた「野うさぎ」はどんな気もちになったでしょう。ふき

出しにそれぞれの気もちを書きましょう。

